

ワークショップの意見紹介(一部抜粋)

チーム	「目指す姿」実現のために、重点を置きたい事業・これだけは譲れないこと！
オランダ坂	<p>■重点を置きたい事業</p> <p>①魅せる・触れる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エントランスホールで名画やオペラの上映、世界一の音楽祭（良い音響で） ・日本の古典芸能の上演、本物に触れる、一流のものに触れる、日頃から本物を見る目を養う <p>②つながる・育む</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本物を子どもたちに日常で触れてほしい、子どもの純粋な目・耳を大事に育てる ・ガラス張りの練習室など一般の人、学生など時間制限なく出入りができ、興味が湧くようにしてほしい ・子どもと大人と一緒に鑑賞できるものを企画、創造力を育てられるような設備 ・エントランスに自由に入れる雰囲気、季節を感じられる作り <p>■これだけは譲れないこと！</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの感性を育てる、自然・緑を沢山とり入れる、席の足元にライトをつける、観客席の勾配をゆるやかに ・音響をよくしてほしい、気軽に練習するスペース、市民の文化力を育てる施設
ピントコ坂	<p>■コンセプト（ジャンルを超えた考え方）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・根元に日本文化があつての長崎文化だと思う。今の時代は、能舞台も様々な芸術の発表の場になり得る。 ・定期的に市民が無料で観れる、聴ける催し物を実施（市民団体に依頼） <p>■建築・舞台・諸室</p> <ul style="list-style-type: none"> ・舞台と客席に重点をおく、子ども連れでも鑑賞可能な客席、年配の方が使いやすい動線 ・本格的な能舞台、セリ・廻り舞台・花道、パイプオルガン ・文化を日常に取り込めるよう若い方のグループが使う小規模スペース、備品庫・倉庫的なスペース ・保育室の設置、トイレの充実 <p>■運用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・使用時間単位を細かく設定、専門アドバイザーの設置、市内他施設との使い分けを念頭に
ドンドン坂	<p>「利用者と運営者が意見を交わせること、みんなで良くしていこうとすること（芝生ゾーンの管理なども）」</p> <p>→市民ボランティアの特典があるとよい</p> <p>■舞台と音響の利用のしやすさ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・舞台周りの使いやすさ、いい音響、公演直前に音を出せる部屋、観劇しやすい会場、他県にも誇れる文化施設 <p>■長崎らしさ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長崎らしい施設名、スタンドグラスは長崎のイメージ ・和物の公演を招聘、エキゾチックなムードを、子どもたちに親しまれるプログラム、一流・世界的オーケストラの招聘 ・「雑音が多い場所」という市民の心配を消してほしい ・敷居が高くなく身近な雰囲気、グリーンの充実、自然エネルギーの活用、カステラベンチ
ハイフリ坂	<p>■長崎市の未来のためのビジョン</p> <ul style="list-style-type: none"> ・誰のためにつくるのか。10年、20年後の長崎市の文化ビジョン、ライブの楽しさ＝文化の良さ ・運営できる仕組みづくり、資金面の支援、長崎市×管理団体×運営団体、市内施設をまとめて管理できるシステム ・集客数≠効果あり、市内文化施設との棲み分け（特性を活かす） ・新ホールは市内施設のなかで一番オープンなスタイルで広場を美しく <p>■管理運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広報、教育現場との連携（育成型事業）、施設の空きがネットで分かり予約ができる ・使用料金のシニア割/登録団体割引、全室wi-fi完備、プロジェクターやスクリーンの貸出 <p>■ホール・諸室・その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本と世界をつなげる環境、公演を同時配信できる環境、練習室と会議室の兼用 ・練習室は防音に配慮し、録音録画ができる、庭園でのイベント、マルシェ、障害者が安心して動ける動線の確保

第4回テーマ「ソフトとハードをつなげよう！」



長崎市では、新たな文化施設の整備を進めており、令和元年7月に基本構想策定、令和2年1月に新たな文化施設の建設場所を現市庁舎跡地に決定しました。現在は、基本計画策定に向け検討を進めております。

令和3年7月31日(土)、4回目のワークショップが開催されました。今回のテーマは「ソフトとハードをつなげよう！」。第1回より、長崎のまちや文化のこと、管理運営計画、施設計画など様々な視点から新たな文化施設について話し合いをしてきました。今回はこれまでの総まとめとして、目指す姿を実現するために何が必要かを議論していただきました。皆さんに議論していただき、ありがとうございました。今回は、シニアワークショップスタッフはオンライン参加となりましたが、ファシリテーターさん、参加者の皆さんのご協力のおかげで、スムーズに進行することができました！

コロナ禍の影響で延期が続く前回ワークショップから時間が経っていたため、まずはじめに事務局よりこれまでの振り返りや文化振興審議会の報告をさせていただきます。ワークショップの意見がどのようにして反映されているか、そのなかを皆さんと共有しました。

グループワークが始まると、「長崎の未来のため、子どもたちのため」というキーワードが多く飛び交い、皆さんの次世代を思う熱い気持ちが会場全体に広がっていました。コロナ禍で様々な体験の場を失われてしまった子どもたちのために新たな文化施設が出来ることは何かなど、改めて考えさせられる一日になったと思います。また「長崎らしさの追求」も重要なキーワードでした。長崎特有の多様な文化を活かしジャンルを超えた芸術が生まれる場にした、と話されている方もいました。

新たな文化施設が目指す姿「芸術文化と平和を世界と共有する」を実現するための方向性が全4回のワークショップを通して見えてきたのではないのでしょうか。

今回の開催予定は未定ですが、基本計画案を皆さまにご説明、意見交換できればと考えております。コロナ禍にも関わらず、ご参加いただき本当にありがとうございます！

大切なことはこのホールが愛されるホールであること。生活にとけこみ、生活の一部となり、次世代を育ててくれるホールになること。長崎の文化・経済の起爆剤になってくれること。

ファシリテーターの方に随分と助けられ、考え方がまとまりやすくなりました。

他のチームも見ている方向は同じだなと思いました。

これまでの内容がよくまとめられていて分かりやすかったです。新しいホールへの期待が膨らみます。自分達市民の責任もひしひしと感じるようになりました。

色々なジャンルの方たちと話ができたいになりました。皆が喜んで使える素晴らしい劇場ができますように！

長崎市新たな文化施設を考える
市民ワークショップかわら版

よかねえ



Vol.04

編集：株式会社シアターワークショップ

発行：長崎市文化振興課

何でもアンケート